

VCS トラバーサルと非トラバーサル コールのライセンスの使用

目次

[概要](#)

[VCS 横断コール ライセンス 使用方法](#)

[VCS Expressway 非走査コール ライセンス 使用方法](#)

概要

この資料は横断および Cisco TelePresence ビデオ コミュニケーション コミュニケーション・サーバ (VCS) の非走査コールおよびコール ライセンスの使用の違いを記述したものです。

VCS 横断コール ライセンス 使用方法

コールがなされ、VCS はメディア、またシグナリングを奪取 するとき、横断コールで、その VCS の横断コール ライセンスを使用します。VCS がメディアを奪取 するように要求する横断コールのいくつかの例はここにあります:

- VCS コントロールに関しては、横断サーバに/からのコール (ファイアウォール横断として呼出します知られている)。
- VCS Expressway に関しては、横断クライアント (ファイアウォール横断コール) に/からのコール。横断クライアントは他の VCS、ゲートキーパー、ボーダー コントローラ、または走査有効にされた エンドポイントが含まれています。
- 呼出しますローカル VCS の H.323 と Session Initiation Protocol (SIP) の間で (相互に作用する) gatewayed。
- 呼出します IPv4 の間で (相互に作用する) gatewayed、IPv6 によってがローカル VCS で当たる。
- 有効になる二重ネットワーク インターフェイスとの VCS に関しては別のものの 1 つの LAN ポートおよび発信から受信であるコール。
- 両エンドポイントが NAT 走査のために対話型 接続 確立 (ICE) を使用しなければ、参加要素の 1 つがネットワーク アドレス変換 (NAT) の後ろにある場合の一口に SIP コール。
- メディア暗号化ポリシーがある呼び出しは適用しました。

- OCS/Lync 続けてユーザ エージェント (B2BUA) が使用されないところ、Microsoft Microsoft Office Communications Server (OCS) バージョン 2007 または Lync サーババージョン 2010 に出入する暗号化されたコール。 B2BUA が使用される場合、 B2BUA アプリケーションはメディアを常に奪取しますが、 VCS が呼出し シグナリングを奪取する場合) コールは VCS 横断コールとして分類されないし、横断コール ライセンス (まだライセンスを非走査消費するかもしれませんが消費しません。

注: Option 鍵 拡張 な OCS コラボレーションが OCS または Lync サーバへの暗号化されたコールに必要となります。

他の呼び出しはすべて非走査 (ローカル) 呼び出しです。

注: コールはルートの各 VCS がメディアを奪取するために必要となるかどうか 1 VCS の横断コール依存したコール ルートの別の VCS のローカル (非走査) コールであるかもしれませんが。

走査呼び出しは非走査呼び出しよりより多くのリソースを使用し、コールの各型の数は別々に認可されます。 VCS に受け取ることができると、同時非走査の最大数のための別のものは呼出します同時横断コールの最大数のための 1 ライセンスがあり。 VCS である各タイプのコールの番号を高めるために (または VCS クラスタ) で利用可能、適切なオプション キーを購入し、インストールできます。 各配備がガイドラインとして異なっている、Cisco 間、システムに同時コール ライセンスへの登録の 10:1 比率があることを推奨します。

VCS Expressway 非走査コール ライセンス 使用方法

通常、VCS Expressway は横断コール ライセンスがそれに直接登録されているデバイス間のコールのためのコールを、ルーティングするように要求します。これはファイアウォールの後ろにあるメディアはコールのエンドポイント間でルーティング可能であることを保証するためにエンドポイントは VCS Expressway がメディアを受け取り、転送することを必要とするという理由によります。

コールが分類される VCS Expressway を通る唯一の状況のこれらのシナリオ一致する時ローカル (非走査) コールがあると同時に:

- 必要な一口に H.323 インターワーキングがありません。
- 必要な IPv4-to-IPv6 アドレス インターワーキングがありません。
- コールは VCS Expressway から横断ゾーンを通してルーティングされません。
- エンドポイントのどちらも走査有効になりません (エンドポイントのどちらも同意か H.460.18/19 と登録しないし、どちらも同意または H.460.18/19 のための要求のコールを作りにませんでした)。
- コールはから受信され、に発信されます:

エンドポイントが WAN に直接接続される隣接ゾーン。

ビデオ呼び出しをサポートする H.323 Application-Level Gateway (ALG) か SIP があるファイアウォールの後ろのエンドポイントが隣接ゾーン、エンドポイントが WAN に直接接続されるようにシグナリングを現われさせる。

(VCS バージョン X5 またはそれ以降が使用されれば) ローカルで登録された、永有効にされた エンドポイント。

注: ファイアウォール走査を援助するために、すべての Cisco TelePresence エンドポイントは走査有効になります、従ってコールに関連するエンドポイントの少なくとも 1 つが TelePresence エンドポイントのとき走査ライセンスが常に必要となります。

注: VCS Expressway の非走査コールは (VCS バージョン X5 またはそれ以降が使用されれば) 利用可能な非走査コール ライセンスがない場合横断ライセンスを消費します。このシナリオでは、コールは非走査コールに残り、VCS Expressway は横断ライセンスを使用するのに、メディアを奪取しません。